

令和3年度 第1回
第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会
会 議 要 録

令和3年10月6日（水）

社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会

日 時 令和3年10月6日（水）午後6時30分から午後8時6分
会 場 市庁舎 東棟8階 802会議室
出席委員 宇田川みち子、大屋朋代、熊田博喜、小久保渉、田中邦忠、千種豊、深田榮一、矢島和美
事務局 秋山常務理事、田村事務局長、高橋事務局次長、横山地域福祉推進係長、岡田経営管理係長、三藤ボランティアセンター担当係長

（午後6時30分 開会）

1 開会

- 委員長 計画を策定してからコロナ禍になり、進めていくことがなかなか難しい状況だったかと思いますが、そういう中でもしっかりと進めていくことが大事です。この計画は6年計画で作っています。現在は、2019年、2020年ということでステップ1を終えた段階になります。皆様からいろいろな意見を頂きたいと思います。
- 事務局次長 資料確認（略）。

2 報告事項

- 事務局次長 特にございませぬ。

3 議事

（1）計画の振り返りシート（案）の書式の変更について

- 委員長 この計画はステップきざみにしています。2年でステップ1、4年でステップ2、6年でステップ3となっており、6年目に次の計画が来るということになります。実は、この進行管理すること自体が、活動計画においては初めてのことになります。私が他の自治体や社協で関わっているところで申し上げますと、皆さん苦戦しています。そういうことを踏まえて、こうすればよいという既定ラインが無いということを理解いただければと思います。その中で武蔵野らしい評価の仕方を模索していくことになると思いますので、それを踏まえて意見を頂ければありがたいと思います。
- 事務局 振り返りシートの書式の説明（略）。
- 委員長 シートの構造やプロットについて説明がありましたが、何か質問等がありますか。
- 委員 評価というのは、市民社協の事務局が評価されたのですか。
- 委員長 事務局が評価したものになります。他にはありませんか。今後不具合が出てきたらステップ2、ステップ3の段階で修正していきたいと思いますので、次に進めます。

（2）計画の振り返りシート（案）の内容について

- 委員長 事務局から説明をお願いします。
- 事務局 本日議論いただきたいところは、1～5頁の基本目標1～3です。表の第1欄「取り組み」の項目で（1）～（8）の8項目、第4欄「ステップ」で22項目ござい

ます。時間の制約もある関係上、事務局として「次に進むための糧」となるように、特に、皆様から意見をいただきたい部分を申し上げます。

1 頁目 (1) ②「対象を明確にした情報提供を行いましょう」、③「WEB 媒体による情報提供を行いましょう」、2 頁目 (3) ③「担い手を増やすために、これまでの活動内容や活動方法を見直しましょう」、3 頁目 (4) ①「住民同士が出会い、顔見知りになれる機会を増やしましょう」の 4 項目です。

これらの項目以外を議論から排除するものではありませんが、全ての項目を均一に議論頂くことは時間的に困難と考え、皆様が議論しやすく、次に進むための糧となり得ると考えた結果、絞り込んだものです。従いまして、他の項目についても「次に進むための糧」となるような「皆様からの応援メッセージ」を頂ければと考えております。

○**委員長** 項目に傾斜をつけるという進め方です。本日取り上げなかった項目についてもメールなどで事務局に送って頂ければ、次回11月の委員会で確定していきます。では、事務局で選んだ 4 項目を優先して進めていきたいと思ひます。では、(1) ②の詳しい説明を事務局から説明願ひます。

○**事務局** 説明 (略)。

○**委員長** 質問や確認したいことやアドバイスなどござひますか。

○**委員** とある 10 人くらいの会合がありまして、そこで市民社協を知っているかどうかを尋ねたところ、ほとんどの人が知りませんでした。「新聞折込みに入ってくる『ふれあい』を発行しているのが市民社協ではないか、新聞を取っている人はどんどん少なくなってきたので果たして読まれているのか」という話がありました。対象者をもっと明確にした方が良いのではないかと思ひます。また、若い人は新聞を取っていない人が多く、情報をスマホ等で SNS から取っているのではないかと感じます。そのため、「ふれあい」は高齢者が対象になっているのではないのでしょうか。これらのことを踏まえて、どのような人に読んでもらいたいと思ひているのかを明確にした方が良いと思ひます。

例えば、市のごみ総合対策課が発行している「武蔵野ごみニュース」があります。これは全戸配布しています。全戸配布というは大変だと思ひかもしれませんが、これはクリーンむさしのを推進する会の方が配布しています。私の場合、500 戸位配っています。また市報は月に 2 回発行し全戸配布していますので、そこに一緒に配布していただければ読んでもらえるのではないのでしょうか。予算の関係もあると思ひますが、せっかく良いものを作っても読まれなければ意味がないと思ひますので、配布方法は早急に検討したほうがよいと思ひます。

○**委員長** 新聞を読む人が少なくなってきたので、従来の配布方法をどうしていくか、見直していった方が良いのではないかと、という意見だと思ひます。どのように情報を伝えて行ったらよいかということについて、他にありまますか。

○**委員** 私は「ふれあい」が新しくなって読みやすくなったと思ひます。私の家の壁に地域社協のチラシ等をポスターのように貼ると道路を歩いている人が立ち止まって見ていきます。地域社協の会員に、一つの町に 10 軒でも手を上げていただき、その人の家の前に看板を立てて「ふれあい」を貼ってはどうか。割と看板は人が見てくれると感じています。

- 委員長 武蔵野市では掲示板はどれくらい整備されていますか。
- 事務局 市の広報課の掲示板は、約50か所です。
- 委員長 現状では、市民社協では活用されていないですか。
- 事務局 利用条件として、掲示期間が3週間ということと、スペースの空き状況の制約もあります。市民社協としては、「歳末たすけあい」のポスター掲示等で利用しています。
- 委員長 掲示板の活用は、3週間の掲示期間を考えると厳しい状況があるわけですね。
- 委員 公的な掲示板はなかなか難しいと思いますが、自宅の壁であればお願いすれば応じてくれる方がいるのではないのでしょうか。
- 委員長 自宅前への掲示の働きかけが大事だということですね。是非、検討いただければよいと思います。
- 副委員長 私設掲示板を作ればよいと思います。新聞の折込み部数は4万を切っているということですが、新聞折込みは他のものと一緒に織り込まれているので、そのまま捨てられてしまうことが考えられ、もったいない気がします。新聞折込みは検討課題になっていると思います。また、世代として考えた場合、若い人はSNSから情報を得ている人が多いので、「ふれあい8月号」にあるような大学生とNPOの記事等は見ることがなくなってしまうので、この辺りも課題だと思います。
- 委員長 これまで市民社協につながっていなかった人で、コロナの関係でつながった人への情報提供やフォローを進めることができますか。良い形での出会いではなかったかもしれませんが、社協を知って頂くことにつながったので、例えば、継続的に何かの情報を提供するとか、Twitterをフォローしていただくといった形で市民社協とつながっていくと良いのではないのでしょうか。
 また、別の委員会ですが、引きこもりの若者に情報提供するという話し合いの場で、「学校から情報提供すればよい」という意見が出た際に、偶然当事者の母親が出席しており、「学校からの情報は見ません」と言われてみんなの目が覚めた場面がありました。情報を届けたい人がどう思っているかということが軸にないと駄目だと思います。「どのように提供するか」を検討するかも重要ですが、「どうやって入手したいか」と思っているか」という受け取り側のニーズを押えることが大切です。Facebookは高齢化しているとも言われていますが、Twitterなら若い人が見るのか、Instagramを使ったとして、「#武蔵野市民社協」で若い人が検索するのかと言えばそんなことはないと思うので、改めて「情報を届けたい人が、どう情報を仕入れたいか」と思っているかを考える必要があると思います。
- 委員 資料をお送りいただいて、どう見るのか難問でした。一つ一つ読んでいくと「なるほど」と思うのですが、三つぐらい読むと「あれ、最初はなんだったか」となり、最後まで読むと完全に訳が分からなくなってしまいました。個別の話ではないのですが、私はこの段階からもう一段階ソートをかけた方がよいかと思いました。「何のために」「誰に対して」「誰が」「何をするのか」「その結果、今どうなっているのか」をもう一度洗いだしてみる必要があるのではないかと思います。
 それと、あちらこちらに「SNS」が出てきますが、「SNS対策」として括って、一般市民、転入者、集合住宅居住者とかに分けてもよいと思いますし、さらに世代別、

情報提供別に分けるとか、もう一工夫していくともう少し使いやすいのではないのでしょうか。具体的な話としては、(1)①で「編集委員が変わりました」とありますが、新たな編集委員は編集業務経験者なので、そういう人が講師になって地域社協の皆さんにお話しできないかということも一つ考えられると思います。全体観の中でいうと、一つ一つの力をどう統合していくかが大事なことだと思います。そうしないと全体がどうなっているか見えないような気がします。

また、情報提供の話ですが、看板は若い人も年配の方も関係なくよく見えています。看板を生かすということは大事なことだと思います。私は、お父さんお帰りのさいパーティーをやっているチラシを出すのですが、チラシを細かく見て、細かく質問してくる方がいます。ですから、見ている人は物凄く見ていると思いますし、見ていない人は全く見ていません。内容が大事だと思います。Twitterを少ししていますが、内容に対して興味があれば、年代に関係なく、結構多くの人が反応してきます。内容については、先ほどの「ふれあい」の編集委員の力を借りる必要があるのではないかと思います。「情報の対象」ということについては、なかなか絞り切れないもので、「この年代はTwitterをやっておけば十分」というものではないと思います。もう少し踏み込んで言えば、市民社協という組織の制約があって、自由ではない、使い勝手が良くない面もあると思います。例えば、Facebookに投稿しようと思っても、市民社協の立場では投稿できない内容もあると思いますが、その辺の課題をどう解決していくのか検討が必要だと思います。

○**委員長** 委員が仰るとおり「SNS」が沢山出ています。これはステップ2を見る時に改めて検証ということになると思います。見せ方も事務局と相談しながらになると思います。「内容が命」ということも仰るとおりで、魅力ある内容をどう発信していくか検討していただければと思います。

また、社協は公共性を帯びている団体ということで情報提供に制約があるというお話がありましたが、市では何か考えられていることはありますか。

○**委員** 情報提供については市でも、毎回必ず指摘を受けるところです。市では、どの課でも「市報やホームページに載せています」と説明するのですが、それが「本当に届きたい人に届いているのか」というと届いていないので、そのような指摘を受けるものと考えています。先ほど「市報に出せば」との意見がありました。市報に出せば目には触れるかもしれませんが、内容によっては伝わらないこともあるので、今は、YouTubeやLINEも使っています。他では、地域支援課でも事業をしています。LINEのプッシュ型では意外に反響があるので取り組んだ価値はあったと思います。ワクチンに関する情報を「若い人に」届けるためにTikTok（ティックトック）を始めました。全方位型と集中型とそれぞれトライアンドエラーではないですが、市ではそのように取り組んでいます。

○**委員長** 市の取り組みも参考にしながら、SNSの使い方を検討いただければと思います。今、委員から出していただいた意見は、「内容をしっかり作る」「今使っている紙面の広報媒体をしっかりと活用する」「掲示板は意外に見えますよ」等で、あまり奇をてらったことばかりをするのではなく、王道だと思いますので、これらの意見を参考に次に進んで、成果報告が出てくれば有難いと思いました。

次は（１）③「WEB媒体」ですが、事務局から説明をお願いします。

○事務局 説明（略）。

○委員長 ボランティア団体のSNSの活用という柱になるので、どう伝えるかという点では（１）②と近い内容になりますので、②と③の間の線を抜いて意見をまとめていただいても良いかと思います。意見や質問はいかがでしょうか。

<特に意見や質問は無し>

○委員長 では、２頁目（３）③の「担い手」について、事務局の説明をお願いします。

○事務局 説明（略）。

○委員長 この項目は、最終的には「担い手を増やす」ということが最終ゴールになるわけですが、「どのように担い手を増やしていくか」というところですね。参加して欲しい人にどのようにフォーカスを当てるかを確認していこうというので「転入者」や「PTA」等と接点を持って今後の展開が期待できそうだと、という状況です。担い手を増やすということは、社協としては至上命題といえるものだと思いますが、意見など如何でしょうか。

○委員 これは永遠の課題だと思います。これに「４」の評価がついていて私は驚きました。今度11月に地域社協の研修会があり、そこで良い意見が出ればよいと思っています。私の記憶では、地域社協ができた活動計画のときのアンケートの中で、「皆とあまり付き合わないから武蔵野市は住みやすい」という意見が８割あり、当時の社協会長は「これではいけない」と仰ってました。市から、地域社協を立ち上げてくれという要請を受けて地域社協を立ち上げただけなのです。そこで、何をして欲しいのか市は何も言わないため、皆何をしてよいかわからず右往左往している団体がいまだに数多くあり、その辺がはっきりしないです。今の若い人は、目的がはっきりしないと入ってきません。地域社協は60代が若い人で、70代から80代が占めている状況ですので、そこへ小中学生のお母さんが入ってきても、お姑さんの中に入るようなもので、絶対にうまくいかないと思います。私は、青少協やPTAの流れで地域社協に入ってきました。みんながその流れで入ってきてくれれば良いのですが、60歳、70歳でもまだ働けますから、働くほうに流れる人が多くなってきました。この辺をしっかり踏まえてほしい。

また、武蔵野市は割と転入者が多い市です。地域社協は、丁目活動が大切だと思います。自分が住んでいる丁目の人をお互い知って、「何かあったら助け合いましょう」ということをきめ細やかに実践していくことが大事だと思いますが、これを実践しているところはごく限られた地域だと思います。市民社協も「困ったときはすぐ市民社協」というくらいのキャッチフレーズを大きく出して欲しいと思います。「ささえあいのまちづくり」では弱いと思います。

○委員 このシートを見て、答えがあって、答えが無いような気がしています。「若い人を取り込む」のところですが、大野田福祉の会では、「ふらっと・きたまち」というテンミリオンハウスを立ち上げています。その中のスタッフの８割は若い方で、お子さんを持ったお母さん等です。このように若い人が集まっていきいきと活動をしているので、何かのきっかけがあれば、どこにでもあり得ることだと思います。

- 委員 「きっかけ」が難しいと思いました。関心があっても入ってくるかというところと違います。先ほどお話があった「青少協」「PTA」からの流れは今も続いています。若い年代の人が続かないという課題は、どの団体でも苦しんでいるところだと思います。人と人のつながりが大事だけれども、今の若い人は自分の抱えている問題があまりにも忙しいので、私たちが育ってきた時代と同じようにはできないということは分かります。いろんな団体にリーフレットを配布して、どれだけ声が上がってくるか興味深いところです。自分たちは地域社協をやっていますが、ここは本当に苦しんでいます。
- 委員長 今、話を伺って、地域デビューが変わってきているのだろうと感じました。これまでは、「青少協」「PTA」「地域社協」と徐々に地域活動に入ってきているというのが武蔵野市の流れであり、大事にしなければいけないモデルだと思いますが、地域社協ができた平成7年の状況と今は状況が違ってきているのも事実です。そういう意味では、大きく変えるということよりも、少しずつリニューアルしていくことを意識する必要があると思います。昔のやり方を守るということだけではなく、一方では少し新しい考え方も取り入れていくということは、新しい力や協力を得るためには必要なことだと思います。その中で、大野田福祉の会は活動と事業が一体化していることが特徴だと思います。活動は高齢のリタイヤされた方が参加されていると思いますが、事業はお金が入るといふこともあるので、比較的若い人を取り込みやすいということがあると思います。地域社協で何か事業をやってくださいということではないのですが、そこに何かヒントがあるのかなと思います。若い人が入っていくためには、今の時代状況を考えると、10年20年前の経済状況と違って働かなければいけない人が結構いるだろうと考えると、「地域で働く」ということを想定した形で何か取り組みを始めるということも方法なのかなと思います。何かをやってくださいということではなく、そこにヒントがあるのかなと思います。比較的若い人を取り込んでいくことについて再度考えて行く中で、新しい力を活用できる仕掛けというものを検討するというのも良いかと思いました。
- 委員 要するに、目的がはっきりしていれば「その目的に対して手伝うよ」と名乗り出てくると思います。例えば、「子ども食堂をやってみたい、支えていきたいという人は手を上げてください」と声をかけるとそれなりに集まるのです。しかし、地域社協は何をやっているのか、また、地域社協の活動目的が分からないのです。地域住民は、地域社協が何のためにあるのかほとんど分からないのです。その辺が分からないと、なかなか担い手が集まらないと思います。これはコミセンも同じです。コミセンは建物があるので、建物の管理団体と理解していても、活動は全然理解されていないのです。なぜコミセンがあるのかということについて、良く分かっていないのです。その辺を明確にしないと、人はなかなか集まらないと思います。地域社協とは何なのか、どのようなことをしているのか、ということをも明確にしていけないと思います。
- 委員 ピンポイントにPTAの役員を捕まえていくのは現実的ではないと思います。先ほどの話にありましたが、共稼ぎしていて何とか役を果たしたという方もいると思いますので、難しいと思います。うまくいっている話を聞くと、例えば、子どもが喜ぶ

イベントをします、小学生の絵を集めて展示をします、それで表彰をします、となると「親も見に行くか」ということで、「将をいきなり射落そうとする」のではなく、「まずは馬から」といった事例を聞いて、すごいと思います。けど自分達でどうにかしようとしてもなかなか考えつかないのです。誰かが「この地区で具体的にこういうことをやりませんか」ともう一步入り込んでいかないと、「話は聞いたんだから、やってくださいよ」ということが多いのですが、それで出来るくらいならもうやっています。そこから一つ先の知恵が出ないから難しいのではないかと思います。

それから、子どもを対象にしたイベントは大事で、人間は経験したことは次のステップに行った時に分かるんです。だから、子どもの頃から何か刷り込んでおくことは大事なことだと思います。

今、「自分達に無い物」というのは大事なことだけど、例えば持っている「資産」をどのように使っていくかだと思います。「資産」というのは、「単に技術的なもの」だけではなく、青少協やPTA等とのつながりのことです。ある程度の組織であれば、地域社協のことも知っている。地域社協と言っても、ある程度の実行力があることは間違いないです。「つながり」や「SNS」等の技術とかを使って、「自分達に有るもの」に焦点を当てていくことも、せっかく持っている財産なので大事にしたいと思います。その時に、「柔軟さ」が大事だと思います。「これはできない」とか「これはだめだ」とか「AとBがつけられない」ではなく、「思い切ってAとBをつないでしまう」といった柔軟かつ、マイナスよりもプラスをどう生かすか、せっかくあるプラスをどう生かすか、という方に考えていくことは必要だと思います。

○委員長 お二人の意見は大事なところなので、まとめます。「目的が明確な方が」というのは確かにそうで、寄付金等も目的がある寄付金の方が集まりやすいと言われていきます。そういった傾向を踏まえながら、今後の地域活動をどのように発信していくか、知ってもらうかが大事だということが一点。

もう一点は、「つながり」とか「技術」とか「有るもの」をしっかりと把握し、そこをどのように活用していくかという視点が大事だということです。やみくもに何か探していくという行為ではなく、既存の有るものをつないで発展していくということです。ただ、つなげる時に、「従来のようなAとBはつながりそうだ」ではなくて「化学変化を起こしてつないでいく」というようなことだと思います。「こことここはつながらないだろう」というところを、敢えてつないでみるという発想を持ちながら、ステップ2、ステップ3へと進めていく必要があると思います。この部分を整理して次のステップである活動者の育成や確保を目指して進めていただければと思います。

○副委員長 市民活動推進委員会に出ていて、広報について、自分たちの活動をどのように知らせていくかということが課題になっています。「広報」「担い手」「目的」などの問題があります。例えばNPOは目的がはっきりしていますが、次の担い手が育っていかないという問題もあります。高齢化して後の担い手が入ってこないということです。目的がはっきりしていてもそれに追尾するような同じような考えの人が入ってこないと続いていきません。

なぜ地域社協ができたかということについては、かつて、社協の中に福祉部があり、その中にケアグループがありました。このケアグループが核になって地域社協ができました。介護保険制度ができる前で、今とは状況が異なり、地域包括が増えていなかったこともありました。介護や高齢化ということで近所のお年寄りを見守って、課題があったら取り組みましょうということでスタートしたのではなかったかと思います。

○**委員長** 子ども食堂の話がありましたが、そこは関心があり、必要とされているニーズだと思います。そこを足掛かりにして良いのだと思います。地域社協ができた頃は、高齢者の地域ケアにどう取り組んでいくのかということが課題だったと思いますし、そこをしっかりと踏まえて進んできたのだらうと思います。

次は（４）①「住民同士の顔見知り」です。事務局から説明をお願いします。

○**事務局** 説明（略）。

○**委員長** このテーマというのは、「関心のあるテーマを設定し、これまで参加したことのない方をどのように巻き込んでいくのか」ということと、「巻き込んだことをどう伝えていくのか」ということで、ステップ1になります。ここは今までの複合問題になります。意見や質問等よろしくお願いいたします。

○**委員** 防災は福祉に一番近いところにあり、一緒に取り組むと良いと思います。私の地区は自主防災組織の立ち上がりが遅く、10年前に男性1人を入れて3人で防災組織を立ち上げました。その後、地域社協と組んで防災の取り組みを進めてきましたが、年齢を重ねて一番できなくなっているのが防災です。なかなか次が続かないのです。私の地域はサラリーマンが多いため、地域に根付いている人が少なく、男性の参加が非常に少ないです。私はもう1人の女性と一緒に50軒の家を回り、勧誘して入って頂きましたが、その後が思うようにいっていません。何も防災組織だけで活動するのではなく、地域社協は災害時要援護者の事業も受けているので、地域社協と一緒に取り組んだ方が良いと思います。

○**委員** ちょっとポイントが違う話になりますが、地域の活動団体を見ていてどの団体も一代限りなのですね。なぜそうかというのと、「それを作った人と同じような情熱を持った人はそうそういないので、続かないものだ」ということです。では「無くなるのか」というと、「違う形で出てくる」のだと思います。そういう側面が一つありますので、「続かないもの」というくらいの認識でいることが大事かと思います。もう一点、逆にやる気がある人は居ると思っています。そういう人達がなぜ地域社協に参加しないのかというのと、そういう人の意見を聞くと、地域社協にしてもコミセンにしても足枷なのだそうです。そういう人たちの発想だと、今思いついたことをLINEか何かで流して、「じゃあ明日の朝やろう」みたいなノリなわけです。そういう人から見ると、「じゃあ上司に許可を得て、社協内での稟議を取って」と、それはそれで正しいのですが、「ついていけないという側面」もあるのだと思います。では、社協が何でも受け入れられるようになるかというのと、それは難しいと思います。そのような「どうしようもない側面」もあるという認識をきちんと持つておかないと間違えてしまうと思います。

また、常に新しい世代が入ってきて進むかというのと、それも違うと思います。やはり地域の活動団体の多くを見ていても、ほとんど一代限りみたいなものです。市の組

織とか公的な組織がついているところは何とか続いています、純粋に自分たちでやっているところはほとんど続いていないです。この二つの側面は、否定的な意味というよりも、前向きな意味で「そういうものである」ということを前提に取り組んでいくということが大事なような気がします。

○**委員長** ありがとうございます。今、お二人の意見を聞いて、「ひびのさんち」の資料を事務局から頂いたところで、とても象徴的だと思いましたがご紹介します。「ひびのさんち」は武蔵野市の居場所として第一線を走ってきました。けれども状況によって今回閉じられたということですが、これが悪いのかというと、ある種の役割を果たしていますので、問題は、この遺伝子をどうつないでいくかということが大事だと思います。「一代限り」ということは、それはそれで良いのだろうと、その時に、違う形をどのように生み出していくかという発想を持てるかどうかが大事です。やる気のある方は地域に沢山いらっしゃる、そういう方を発掘することが大事な上に、「発掘した方をいきなり地域社協につなぐ」のではなく、「そこで育てていきながら連携していく」という感じです。地域の担い手とか新たな人を育てていくことを考えた時に、「旧来のやり方に無理やり引きつけていく」のではなく、「やりたい人をうまくどう育ててサポートしていくか」という発想と、「役割を果たしたと考えられている方を無理やり引きずり倒す」ということではなく、「活動したことに感謝の気持ちも込めて御礼を申し上げつつも、次をどう考えていくか」ということです。

他に、今日これだけは言っておきたい意見はありませんか。

<特に意見は無し>

また、細かいところなどありましたら、事務局へ連絡いただければと思います。11月にこの推進委員会もありますので、そこで共有したいと思います。

4 事務局からの連絡事項

○**事務局** 本日、お出しできなかった意見がありましたら、来週13日（水）までに、紙かメール等で頂ければ、次回の推進委員会の資料に盛り込みたいと思います。

5 次回の日程

○**事務局** 先ほど（3）③について「評価が4になっているので驚いた」という意見がありました。これは、「6年間の取り組み」としての「評価4」ではなく、その中の「ステップ1」に対して「評価4」ということです。内容や評価について、「私達はこういう状況を知っているから、3で良いのでは」といったようなことも含めて意見があれば委員の皆様へ補足を頂ければと思いますので、情報提供もよろしくお願いたします。

次回の日程は、11月18日（木）午後6時30分からとなります。会場は「かたらいの道市民スペース」となりますが、皆様ご存じでしょうか。三鷹駅北口のツインタワーの1階になりますのでお間違えのないようにお越しいただければと思います。

（午後8時6分 閉会）